

# H24 年度第 1 回保全事業報告会



## <開催日時>

- 平成24年10月12日(金)19:00-20:30 谷津干潟自然観察センター(34名)

## <説明内容>

- これまでの国指定谷津鳥獣保護区保全事業の実施状況について
- 平成 24 年度国指定谷津鳥獣保護区保全事業の実施計画について
- 質疑応答

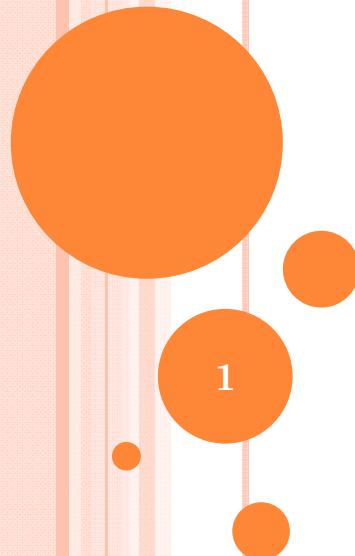
※資料

[これまでの国指定谷津鳥獣保護区保全事業の実施状況.pdf](#)

[平成 24 年度国指定谷津鳥獣保護区保全事業の実施計画.pdf](#)

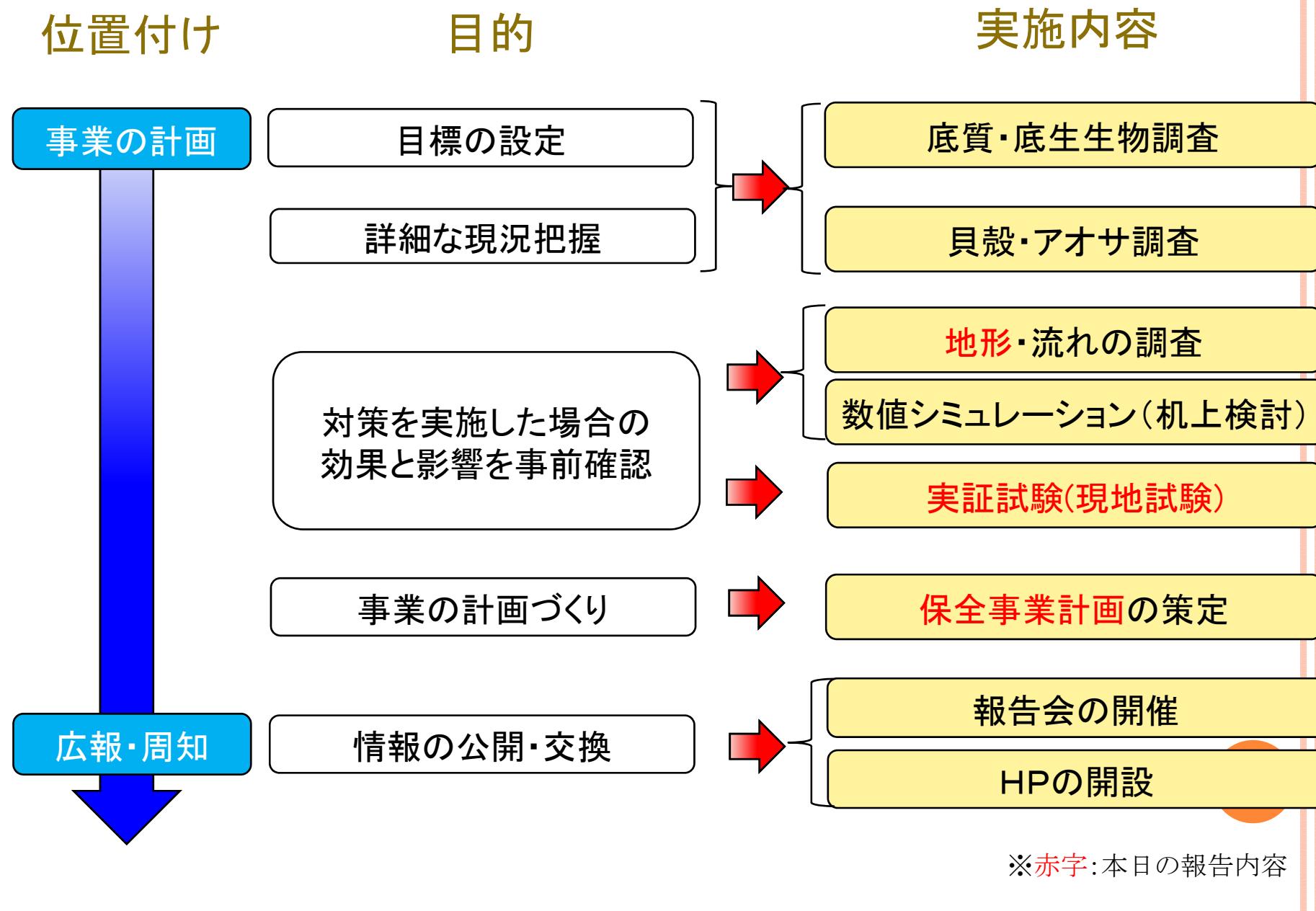
[議事概要.pdf](#)

# これまでの国指定谷津鳥獣保護区 保全事業の実施状況について



関東地方環境事務所

# 1. 平成23年度の全体計画



# 2. 保全事業計画書

## ■保全事業HP

<http://yatsu-hozan.com/>

国指定谷津鳥獣保護区保全事業

トピックマップ  
登録ガイドについて  
お問い合わせ

トップページ 谷津干潟 保全事業 保全の取り組み 専門家による検討 地図との合意形成 資料DB リンク

関東地方環境事務所では、国指定谷津鳥獣保護区で渡り鳥（シギ・チドリ）の渡来実績が大幅に減少していることから、鳥獣の生息環境の改善等を目的として、鳥獣の生息地の保護及び基盤を回復するための保全事業を平成22年度より実施することとしました。本ホームページでは、国指定谷津鳥獣保護区保全事業に関する情報をお伝えしています。

お知らせ

- 2012/09/25 【イベント】 国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会10/12に開催予定です。詳しくはこちから
- 2012/03/12 【資料DB】 [「谷津干潟の変遷」を追加・更新しました。](#)
- 2012/03/12 【資料DB】 [「ジオラップ」を追加・更新しました。](#)
- 2012/03/12 【】 [「ヨウイリについて」を追加・更新しました。](#)
- 2012/03/09 【保全の取り組み】 [「越干瀬試験」を追加・更新しました。](#)

以降の更新はこちからに掲載しています。

環境省 環境省関東地方環境事務所 総合政策局 関東地方環境事務所 総合政策局 関東地方環境事務所

## ■保全事業計画書

### 国指定谷津鳥獣保護区 保全事業計画書



平成24年3月

関東地方環境事務所

## ■パンフレット



◆スケジュール

◆保全事業の実施スケジュールは下記のとおりで、計画的に保全事業を進めます。



◆実施体制

◆地元の方々や公共団体や施設管理者などの関係機関の協力を得ながら、専門家の助言や地域との協働のもと、地域と一緒にして谷津干潟の保全に取り組みます。



関東地方環境事務所 - 平成24年3月発行 -  
〒330-6018 茨城県ひたちなか市中央11-12 荒井田生ビル18階  
TEL: 048-600-0817 / FAX: 048-600-0517



### ◆谷津干潟の特徴

◆谷津干潟は、周囲の建立が進むなか、地域の熱心な保護活動によって守られた約40haの干潟で、茨城県に残る2つの川を通じて、海水が流入・流出を繰り返しています。  
◆砂泥質へ泥質の干潟には、年間約80~100種の鳥類が飛来し、全国有名なシギ・チドリ類の渡来地となっています。

◆環境省では、谷津干潟を国指定谷津鳥獣保護区に指定し、ヒョウの保護を行っています。また、水鳥の生息地としてラムサール条約登録地に登録され、干潟保護の役割を果たしています。

◆谷津を過ぎて数多くの野鳥が流れ、都心に近いアカガシが咲いていますから、バードウォッチング、散策、憩い、自然観察の場として、多くの人々に親しまれています。

### ◆谷津干潟における環境変遷

◆元々は茨城県に面する砂丘の前浜干潟の一部でしたが、1970年代に周囲が埋立てられ、現在の谷津干潟の形となりました。当時の埋立て工事で発生した泥干潟内に層々堆積しており、ゴカイやカニなどの多くが生息する泥干潟でした。

◆その後、泥干潟に流入し、一部で地盤高の低下、砂質化や貝殻の堆積、生物では貝類の増加やアカガシの繁茂、岡阪などから、砂質干潟の環境へと変化しつつあります。



谷津干潟における環境変遷

## 目次

1. 谷津干潟の概要	1
(1) 谷津干潟の特徴	1
(2) 指定・登録状況	2
(3) 調査・検討の経緯	3
2. 保全事業	4
(1) 国指定谷津鳥獣保護区の重要性	4
(2) 環境変遷と今後想定される変化	5
(3) 保全事業の必要性	7
3. 保全方針	8
(1) 望ましい姿と保全対象	8
(2) 保全目標	9
(3) 保全の考え方	11
4. 保全対策	12
(1) 保全上の課題	12
(2) 課題の優先度	16
(3) 対策メニューの抽出	18
(4) 対策案の比較・検討	23
(5) 保全対策の具体化	25
5. 保全事業の進め方	29
(1) 保全事業の流れ	29
(2) 保全に向けた取り組み	30
(3) スケジュール	31
(4) 実施体制	31

### <参考資料>

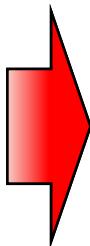
参考 1 :これまでの出来事	資 1
参考 2 :空中写真の変遷	資 2
参考 3 :収集資料一覧	資 3
参考 4 :環境の変遷	資 5
参考 5 :インパクトレスポンスフロー	資 11

### 3. 嵩上げ試験の現状

#### アオサ集積・吹き寄せの 抑制効果と影響の現地検証



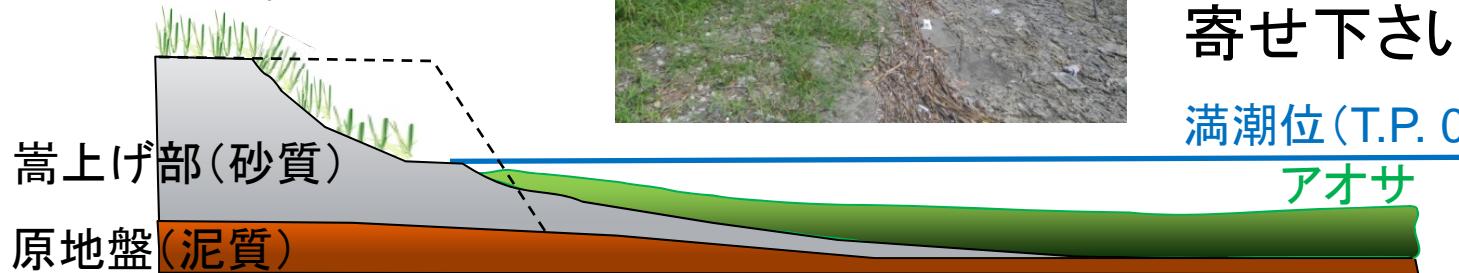
施工前(平成24年2月)



施工後(平成24年8月)



約1m地盤を嵩上げ  
(天端T.P. 1.4m)



試験内容について  
ご意見・ご要望をお  
寄せ下さい。

## 4. 震災後の地形

震災前(平成23年2月)

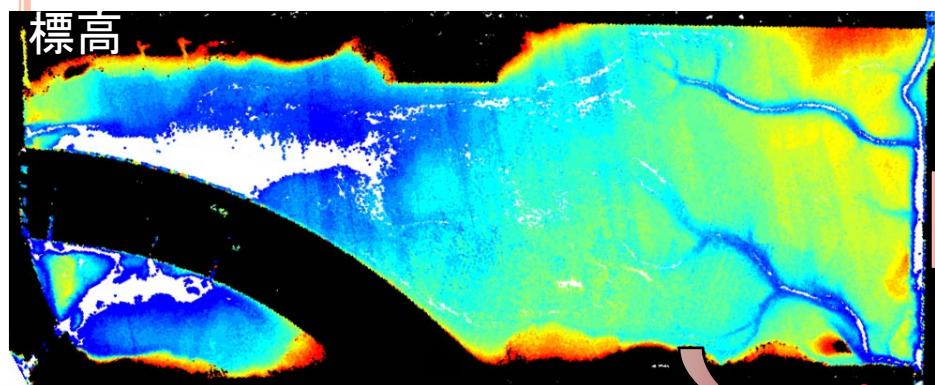
航空写真



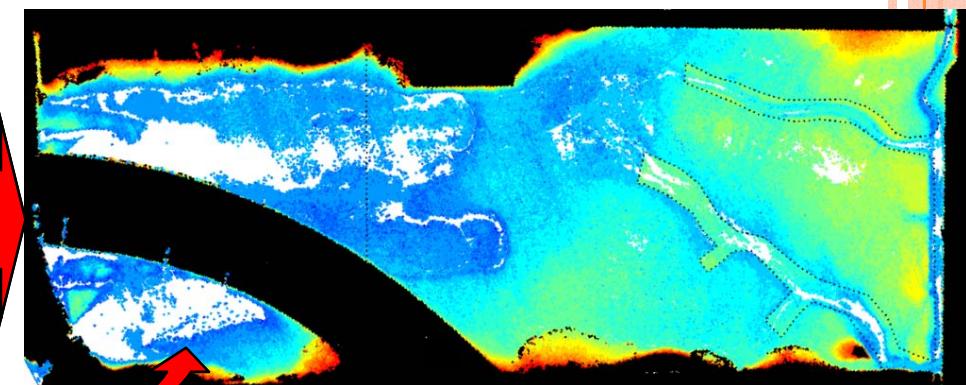
震災後(平成24年7月)



標高



変化は?



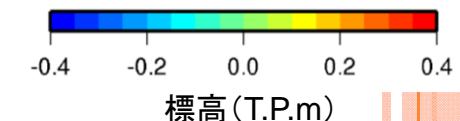
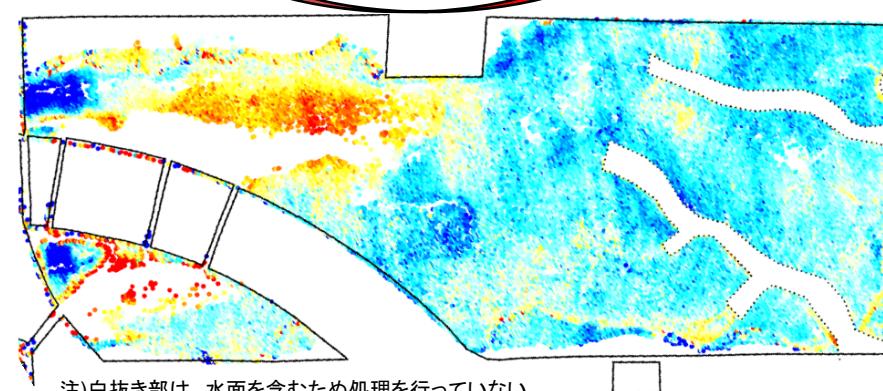
標高差  
(震災後 - 震災前)

低下

上昇

-0.20 -0.15 -0.10 -0.05 0.00 0.05 0.10 0.15 0.20

標高差(m)



# 平成24年度国指定谷津鳥獣保護区 保全事業の実施計画について



関東地方環境事務所

# 1. 平成24年度の全体計画

位置付け

目的

実施内容

計画の適正化・充実

震災による地形変化

地形調査

保全事業計画の見直し

対策の具体化

目標の具体化

底質・底生生物調査

アオサ分布・腐敗状況調査

事業の実施

対策を実施した場合の効果と影響を事前確認

実証試験(現地試験)

- 底質改良試験  
(底生生物の生息環境の変化)
- 嵩上げ試験(アオサ悪臭対策)
- 杭設置試験(アオサ悪臭対策)

小規模な保全対策工事(検討中)

より効果的・効率的な対策の検討・施工

報告会の開催

情報の公開・交換

HP開設

地域との連携・協働

イベントの開催

## 2. 平成24年度のスケジュール(案)

	夏	秋	冬
現地調査	計画見直し・目標の具体化 に向けた現地調査		
解析・検討		対策検討・将来予測(計画見直し含む)	
実証試験	底質改良⇒モニタリング・評価  嵩上げ⇒モニタリング(評価)  杭設置⇒モニタリング(評価)		
対策の具体化検討		有効な対策の具体化	
保全事業の実施	緊急的な対策の実施(アオサ回収)  ※H14年度より継続実施		
地域住民との連携	HPの運営  報告会  イベント開催	報告会	報告会

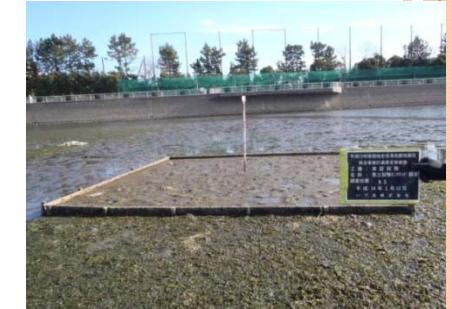
### 3. イベントの開催について

保全事業の取り組みについて広く知って頂くとともに、  
みなさまからのご意見・ご要望をお伺いするため、  
みなさまと一緒に実証試験地をみてまわるイベントを企画中

嵩上げ試験(H24.3～)



底質改良試験(H23.3～)



杭設置試験(H24.9～)



内容についてご意見・ご要望をお寄せ下さい。

平成 24 年度第 1 回国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会  
(平成 24 年 10 月 12 日(金)19:00~20:30 谷津干潟自然観察センター)  
議 事 概 要

- 参加者**
- ・ 嵩上げ試験区におけるアオサ腐敗臭の調査内容を知りたい。悪臭への対応を早急にとって頂きたい。
  - ・ アオサ回収活動の実施場所は、保全事業計画書で位置付けられるアオサ腐敗場所と一致しない。回収方法として妥当か。
- 事務局**
- ・ 環境省がにおいてアオサの繁茂・腐敗状況を定期的に記録している。
  - ・ 試験区近傍にカメラを設置し、地形変化とアオサの繁茂状況を撮影するとともに、アオサ腐敗臭の数値化を試みている。
  - ・ アオサ腐敗臭への対応として嵩上げと杭設置の実証試験を行っている。谷津バラ園芝生広場の南東側でもアオサの回収活動は実施されている。
- 参加者**
- ・ 観察センターの裏側入口付近のたまりは、流木やゴミが多く景観が良くない。
  - ・ 最近は貝が水を噴き出している様子がみられない。餌がないと鳥は来ない。
  - ・ ららぼーと側の沿道の植樹が枯れている。習志野市は対策をとっているが、国と地方等との足並みがそろっていない。きめ細かく管理してほしい。
- 環境省**
- 参加者**
- ・ 詳しい場所を教えていただき、今後の参考とさせていただきたい。
  - ・ 事業の進捗が遅いと感じる。
  - ・ 本年度に企画されているイベントの目的と意義は何か。
  - ・ 住民との協働の仕組みづくりはどのような考え方で進めるのか。
  - ・ 環境省が環境学習のプログラムを主導・主催すれば、地域住民の協力を得やすいのではないか。環境省のイベントで観察会を開催する考えはないのか。
- 環境省**
- ・ 谷津干潟は、これまで長年に渡って地域の方々が保全に取り組んできた努力により、良好な環境が残されている。
  - ・ 環境省は、事業によりドラスティックに環境を変えるのではなく、地道な調査に基づき、慎重に事業を進めていきたい。
  - ・ 保全事業では、環境を改善する対策として底質改良、嵩上げ試験等を実施しており、事業に反映可能な情報が得られてきている。
  - ・ アオサの腐敗臭対策は進めているところであり、今後も重点事項に位置付ける。
  - ・ 今年度実施するイベントでは、保全事業の実施状況を見て頂き、今後の保全事業の進め方に対する意見を頂きたいと考えている。また、対応と効果について実際の現場で説明を行い、保全事業に対する地域住民の方々の理解を深めたい。
  - ・ 干潟の将来的な管理は、地域や関係機関によって協議会のような組織がつくれられ、保全を念頭においていた谷津干潟との関わり方を、持続的に検討していくことが必要だと考える。それを国が後押しするイメージである。保全対策の第一段階として、国が事業を実施している位置付けとなる。

- ・野鳥の会や観察センター等が既に生物観察のイベントを実施しており、今年度は環境省が同様のイベントを実施することは考えていない。将来的にどのような内容にするかは、今年度のイベントの実施を通じて、協働の在り方を検討したい。
- 参加者**
- ・NPO 等の協議会とは以前存在した谷津干潟環境保全交流会に類するものか。
- 環境省**
- ・多様な主体が一つとなり、その中で議論をする場を設け、今後の保全と利用の在り方について、検討していくことが理想と考える。保全事業が終了する 5 年後以降は、交付金など環境省からの補助の仕組みの利用も考えられる。
- 参加者**
- ・杭を設置するのではなくバラ園前にヨシを植栽してはどうか。
- 環境省**
- ・現在のところヨシの植栽は考えておらず、ヨシの侵入を含めて自然の遷移に任せの方針である。具体的な方法は専門家の意見も踏まえて検討する。
- 参加者**
- ・現地で観察していて、ゴミやアオサの流れは確実に良くなつたことから、嵩上げの効果が高かったと評価できる。アオサも回収しやすくなつた。
  - ・今回の試験のように、形状は事前に細かく決めずに自然に任せるのが良い。
  - ・ヨシを植栽するとヨシの根元にゴミが溜まりその回収は困難である。
- 参加者**
- ・シギ・チドリは全国的に減っており、谷津干潟では他地域以上に減少している。恐らくゴカイが減ったなど餌生物の生息状況が変化している。ホソウミニナ、ホンビノスガイが増加していることも関係しているのではないか。
  - ・観察センターの裏側入口付近など、泥質の景観上良くない様な場所が鳥にとって重要なので、そのような環境も残してほしい。
  - ・アオサの中にも餌生物はいるので、減らす量はにおいて許容できる程度にするなど、住民の方が許容できる範囲で、鳥にも配慮した対策としてほしい。
- 事務局**
- ・シギ・チドリの減少、干潟の干出時間・面積の減少、ホソウミニナ・ホンビノスガイの増加などの環境変化はご指摘の通りである。パンフレット及びホームページ上の資料にもデータを掲載しているので、参考にして頂きたい。
- 参加者**
- ・観察センターのイベントで、干潟内に人が立ち入り、鳥類にインパクトを与えている。その他、企業や教育機関等の立ち入りもある。7 月下旬から 8 月はシギ・チドリにとって重要な渡りの時期であることから、問題である。
- 環境省**
- ・頂いたご意見については後日環境省内で対応を検討させて頂く。
- 参加者**
- ・計画の修正・見直しとは震災によるものか、これまでの反省を活かして見直すということなのか。保全事業は 5 年という話だが、見直しによる延長はあるのか。
- 事務局**
- ・保全事業計画書は震災前の地形を前提に作成し、カルバートや三角干潟での貝殻堆積による排水阻害を課題としていたが、震災で地盤が低下し貝殻が崩れた。
  - ・地形変化は干潟環境に大きな影響を及ぼすことから、震災後の地形を再度調査して、地形変化に伴う計画の見直しを行うという意味である。
- 環境省**
- ・カルバート内に堆積した貝殻を取ることで水の流れを良くすることを想定していたが、震災後に水の流れが変化した可能性がある。
  - ・震災による地形変化を把握し、問題が解決された点については、他の対策に力を

移すということで、修正・見直しを進める。

- 参加者
- ・ 谷津干潟の現状をしっかりと把握し、事業の継続を含め5年にとらわれず、効果がきちんと出るよう計画を実施してほしい。
  - ・ 他のグループも干潟内で環境調査をしている。そういう情報も活用し、積極的に様々な対策に取り組んでほしい。
- 参加者
- ・ 習志野市は市民との対話を大切にしてほしい。谷津干潟の環境と、近隣の住民が健康で豊かになることを市民が望んでいると市長へ伝えてほしい。
- 習志野市
- ・ 市としても健康な干潟と健康な人々に賛成である。多様な考え方や立場があり、意見の相違も多く発生する。自分の意見・他の意見を尊重し、合意形成を図っていかなければならない。今日の議論は多様な立場と主体があることを感じ有意義であった。ご要望は市長に伝える。

以上